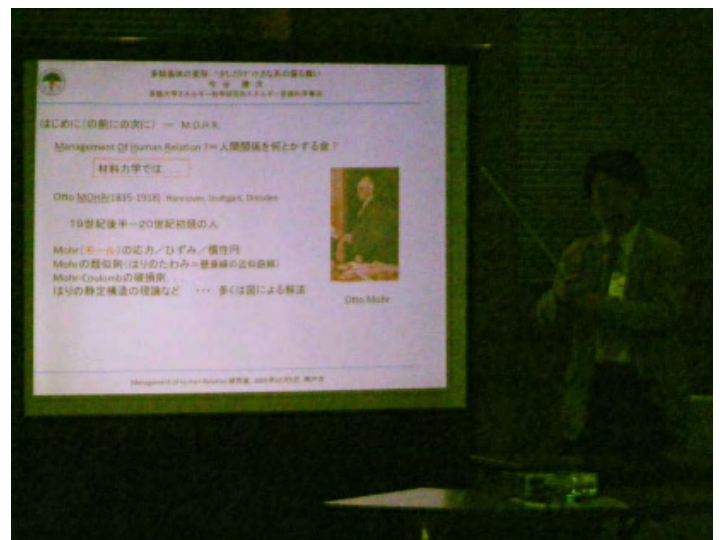




関西支部 MOHR(Management of Human Relation)研究会 報告

去る10月9日、三菱電機、パナソニックにつづき、本年度第3回目の標記研究会が神戸製鋼所に於いて開催されました。企画されました会社側の反応は以下の通りです：

神戸製鋼京機会は新入社員の入社を契機に、時折、懇親の場を設けておりますが、今回のようにアカデミックなお話を機に集まる事は始めてであり、参加者の皆さんが、日々、現在の課題に流されてしまう業務を考え直す新鮮な機会となり、意義深かったと評価が高まっております。また、小生個人的には、参加者各位の新たな側面を垣間見る事が出来て大変面白い機会であった事も印象的でした。



本年度はさらに、大阪ガス、住友金属での開催が予定されています。今まで開催されました会社全ての反応が極めて良かったので、来年度からこの企画を関西支部のものではなく、京機会全体の本部企画とする予定とのことです。

エネルギーのはなし 第 3 編 (その 1)

藤川 卓爾 (昭和 42 年卒)

出典:「火力原子力発電」第 60 巻、第 2 号、2009-2、pp.32 ~ 40

発行: 火力原子力発電技術協会

1. はじめに

これまでに2回にわたって、「エネルギーのはなし」(その1)¹⁾、(その2)²⁾として、高校生や女性など一般の人達向けに、「エネルギーとは」から始めて、人類とエネルギーのかかわりを振り返り、現代のエネルギーの主役である電気エネルギーの大半を生み出している火力発電の仕組みと熱効率、日本のエネルギー事情、21世紀のエネルギーに期待される要件について述べた。今回は、21世紀のエネルギーについての筆者の5つの仮説を紹介する。これらはあくまでも仮説であって正しいかどうかは現時点では分からない。読者の皆様が将来のエネルギー問題を考えるきっかけになればと思う。



2. 21 世紀のエネルギーについての 5 つの仮説

前回、「エネルギーのはなし(その2)²⁾」で、21世紀のエネルギーに期待される要件について考え、「化石燃料に全面的に依存する状況から脱却しなければならないのは明らかであるが、それに代わる代役が原子力を除いてはまだ十分に育っていないというのが実情である。」と述べた。「21



図1 江戸時代の生活

[出典] 石川 英輔「大江戸えねるぎー事情」, (1999-6)、「大江戸えころじー事情」, (2003-12), 講談社

世紀のエネルギーはいかに？」「持続可能な循環型社会を支えるには？」、この問いに対して、筆者なりに 5 つの仮説を立ててみた。以下にこれらを順次紹介する。

3. 仮説①：自然エネルギー

100 %自然エネルギーに依存し、エネルギーも食料も自給した実例が 150 年前までの日本にあった。「江戸時代」は人口 3 千万人弱で完全なリサイクル社会を形成していた。石川 英輔氏の著書「大江戸えねるぎー事情」⁴⁾、「大江戸えころじー事情」⁵⁾には江戸時代の生活の様子が描かれている。これらの書物の表紙(図 1)に描かれた江戸時代の人々の生活は、化石燃料に頼らず、ものを徹底的に再利用し、とことんまで使った後に自然に戻す理想的な持続可能循環型の生活であった。竹内 誠氏監修の「ビジュアル・ワイド 江戸時代館」⁵⁾(図 2)にもさまざまなリサイクル生活の様子が描かれている(図3)。

江戸時代のエネルギー源は太陽エネルギーである。図 4には「日向水」の様子が



図3-1 江戸時代のリサイクル生活

[出典] 竹内 誠監修「ビジュアル・ワイド 江戸時代館」, 小学館, (2002-12)

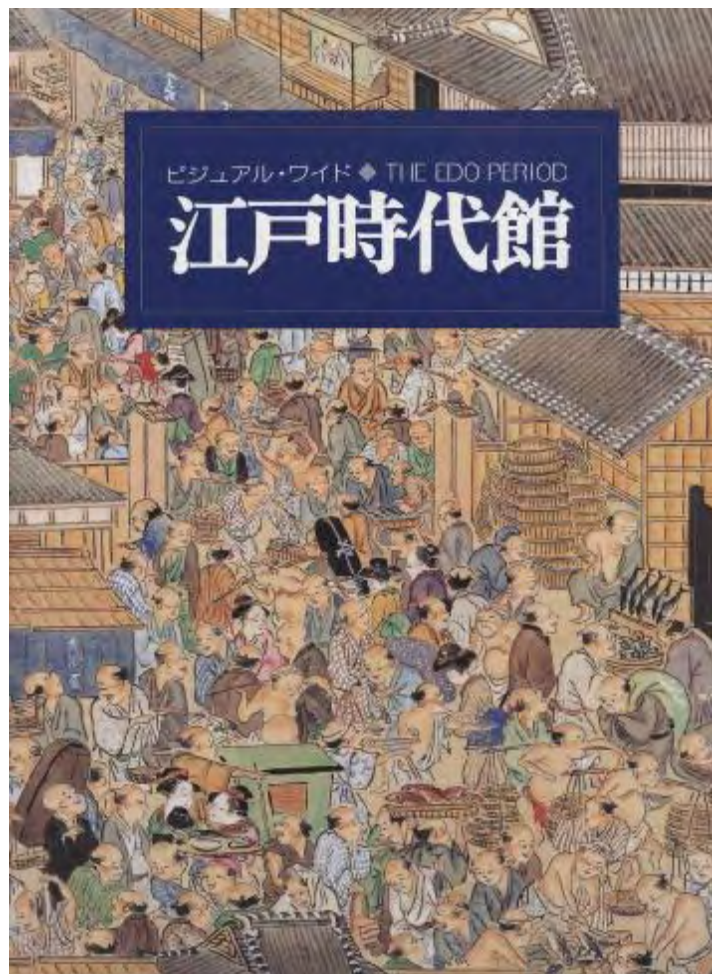


図2 江戸時代の生活

[出典] 竹内 誠監修「ビジュアル・ワイド 江戸時代館」, 小学館, (2002-12)

描かれている。筆者も少年時代に海水浴から帰ったら、母が「日向水」を準備してくれていたのを思い出す。図 5は旅行の様子である。江戸時代の旅行には食料以外のエネルギーは必要とされなかった。歩くか、船に乗るか、馬に乗るか、かごに乗るかである。このようにして化石燃料なしにやってきた。化石燃料を使用しないから大気汚染もない。まさに、今流行



古着売り 店売りと売り歩きがあり、同じ品物でも持ち主が変わるたび、何度も売られることもあった。



錠前直し 錠の修理や、なくした錠の取り付けをする。



磨師 腰刀・小刀・包丁・鋏などを研ぐ。



銭葉産売り 古紙を捻って筵に編んで売る。



紙くず買い 古紙・古帳を買う。



雪駄直し 革緒や狸革など履き物の破損を直す。

さまざまなリサイクル業者



そろばん直し 壊れたそろばんを補修する。



提灯張り替え 提灯の損を修理し、文字を書く。



灰買い 竈や炉にあまった灰を肥料用に買い集める。



羅宇屋 煙管の部分の直しや、り替えたりする。

都市



古傘買い 江戸では1本4文、ら12文で買いとったが(左)、方では土瓶や団扇と交換した(右)。

図3-2 江戸時代のリサイクル生活

[出典] 竹内 誠監修「ビジュアル・ワイド 江戸時代館」, 小学館, (2002-12)

の「地球に優しい」生活である。ただし、「地球に優しい」は美しいが、それだけでは済まない。同時に「人間に厳しい」のである。筆者は片道10kmをガソリン約1Lと時間約20分をかけて、自動車通勤しているが、この距離を歩くと約2時間かかる。毎日、往復4時間歩いたらそれだけで1日の仕事をしたように疲れるだろう。



図4 日向水

[出典] 石川 英輔「大江戸えころ
じー事情」, 講談社, (2003-12)



図5 江戸時代の旅行の様子

[出典] 石川 英輔「大江戸えころ
じー事情」, 講談社, (2003-12)

「地球に優しい」生活をしようとすればそれだけの覚悟がいる。

「江戸時代」は鎖国をしていたから砂糖以外の食料も自給であった。人口は現在の約1/4, 現在の日本人の4人のうち3人がいなくなって、「人間に厳しい」生活に耐える覚悟があれば、「江戸時代」に戻すことによって持続可能な循環型社会が実現できる。これは過去に現実に存在した社会なので一番確実な仮説である。しかし、誰一人として4人のうちの「いなくなる3人」にはなりたがらないであろうし、一度経験した快樂を捨てて「人間に厳しい」生活に戻りたいといわないのではないであろうか。

<参考文献>

- 1) 藤川 卓爾：エネルギーのはなし(その1), 火力原子力発電, 第60巻, 第1号, pp.27-33, (2009-1)
- 2) 藤川 卓爾：エネルギーのはなし(その2), 火力原子力発電, 第60巻, 第2号, pp.-, (2009-2)
- 3) 石川 英輔：大江戸えねるぎー事情, 講談社, (1999-6)
- 4) 石川 英輔：大江戸えころじー事情, 講談社文庫, 講談社, (2003-12)
- 5) 竹内 誠監修：ビジュアル・ワイド 江戸時代館, 小学館, (2002-12)

(つづく)

平成21年度京機会秋季大会・総会開催のご案内

本大会を下記により開催致しますので、ご出席下さいますようお願い申し上げます。

日 時：平成21年11月28日(土) 14:30～

会 場：京都大学時計台百周年記念館 百周年記念ホール 他

行 事：

1. 講演会 14:30～15:30

「磁気浮上遠心人工心臓ポンプの開発を振り返って」

赤松 映明 氏 (S31卒、京都大学名誉教授)

臓器移植法が成立したとは云え、世界的にも移植生体心臓の絶対的不足から恒久使用の人工心臓が希求されている。今から20年前、京都大学在任中に手がけた世界初の磁気浮上遠心血液ポンプは人工心臓としてテルモ(株)によって製品化され、既に欧州では認可されて約百人の患者に埋め込まれている。国内でも臨床試験を終え、国の認可を待っているところである。そこでこの人工心臓開発の経緯を、世界の難題と併せて、述べさせていただく。また、医工連携、産官学協同さらに京機会との関連についても云及する。



2. 講演会 15:40～17:10

「光源氏のスパルタ教育」

山本 淳子 氏 (京都大学文学部卒、京都学園大学教授・平安文学研究者)

平成19年「源氏物語の時代- 一条天皇と后たちのものがたり-」(朝日新聞社)により、サントリー学芸賞(芸術・文学部門)受賞。

光源氏は、恋ばかりしていた訳ではありません。彼は親として長男にスパルタ教育を施していたのです。子育てに奮闘する彼の前には、世襲・格差社会など現代にも通じる問題がありました。どうぞ光源氏と共に考えください。



3. 総 会 17:20～17:50

4. 懇親会 18:00～20:00

会 場：京都大学時計台百周年記念館、国際交流ホール

会 費：3,000円 学生1,000円 ご家族1,000円 (当日会場でお支払い下さい)

●ご自由な服装でお越しください。

●講演会・総会は無料でご参加いただけます。 ●ご家族のご参加も歓迎いたします。

●ご回答は、11月16日(月)までに、同封のはがきでお寄せ下さい。

京機会ホームページ(<http://www.keikikai.jp/>)からも、受付できます。

但し、二重受付登録防止の為、出欠回答は「はがき」か「HP受付」のどちらか一方でお願いします。

京機会・京機学生会SMILE 学生と先輩との交流会のお知らせ

日 時：平成21年11月28日(土)

10:15～15:00

会 場：京都大学時計台百周年記念館
国際交流ホール

- 参加学生にはSMILE製作の特製企業ブックを贈呈！
- 本年度は9月7日付で京機会員在籍企業約250社宛に案内発送し、先着順にて参加企業を決定いたしました。上記登録済250社以外で次年度に案内送付を希望される企業は京機会迄ご連絡下さい。



～ 学生と先輩との交流会とは ～

本交流会は、学生が社会における「現実」を知る教育活動の一環として、平成11年より実施しております。本会は、京機会会員である先輩から、在学生に対し、大学における勉強と実社会の仕事の関係、仕事のやりがい・心構えなどを話していただいております。例年、学生の関心も大変高く、勉学の動機づけや将来の方向付けにも少なからず寄与しております。毎年、約100社の企業にご参加いただき、各社からも好評いただいております。



学生と先輩との交流会 参加企業、団体

旭硝子株式会社	ダイハツ工業株式会社	株式会社キ - エンス
マツダ株式会社	いすゞ自動車株式会社	サンテスト株式会社
株式会社クラレ	キャタピラ - ジャパン株式会社	株式会社リクル - ト
日本ガイシ株式会社	住友重機械工業株式会社	株式会社デンソ -
株式会社島津製作所	ナブテスコ株式会社	住友化学
株式会社クボタ	オムロン株式会社	株式会社西島製作所
住友精密工業株式会社	T I S 株式会社	三菱重工業株式会社
宇部興産機械株式会社	住友電気工業株式会社	株式会社東芝
ア - サ - ・D・リトル (ジャパン) 株式会社		株式会社S U M C O
株式会社日立製作所	コマツ	住金プラント (株)
住友金属工業株式会社	株式会社森精機製作所	三菱電機株式会社
川崎重工業株式会社	オリンパス株式会社	日本原子力発電株式会社
富士電機ホ - ルディングス	キヤノン株式会社	株式会社豊田自動織機
ヤマハ発動機株式会社	新日鉄エンジニアリング株式会社	株式会社I H I
株式会社豊田中央研究所	JFEスチール株式会社	NTT 西日本
新日本製鐵株式会社	H i t z 日立造船株式会社	旭化成株式会社
パナソニック電工株式会社	ヤンマ - 株式会社	JSR 株式会社
ダイキン工業株式会社	(株)ルネサステクノロジ	新日本工機株式会社
富士通株式会社	パナソニック株式会社	関西電力株式会社
東レ株式会社	スズキ株式会社	株式会社ブリチストン
東京電力株式会社	三菱化学株式会社	株式会社ジェイテクト
株式会社カネカ	中国電力株式会社	古河電気工業株式会社
TOTO 株式会社	日産自動車株式会社	ヤマハ株式会社
帝人株式会社	日立電線株式会社	西日本旅客鉄道株式会社
株式会社リコ -	富士フイルム株式会社	株式会社日本製鋼所
アイシン・エイ・ダブリュ株式会社		麒麟ビ - ル株式会社
神戸製鋼所	国土交通省	株式会社ディスコ
三菱自動車工業株式会社	中部電力株式会社	トヨタ自動車株式会社
株式会社村田製作所	日立建機株式会社	経済産業省
株式会社大阪真空機器製作所		東海旅客鉄道株式会社 (JR 東海)
ファナック株式会社	株式会社大阪チタニウムテクノロジー - ズ	
大阪ガス	ロ - ム株式会社	株式会社NTT デ - タ

第28回 関西支部 異業種交流会のお知らせ

異業種交流会を、コマツ様、関西電力様、あわら温泉「政竜閣」社長向野様（S55卒）のご厚意により宿泊型で収穫たっぷりの交流会を企画いたしました。

多数のご参加をお待ち申し上げます。ご家族のご参加もお待ちしております。

1. 日程 : 2009年11月20日（金）・21日（土）
2. 集合場所: コマツ栗津工場の正門の守衛所
5. 参加費用: 懇親会・宿泊費および移動用バスなど 約13,000円/お一人
6. 参加定員 先着 30名
7. 参加申込方法:

京機会のホームページ <http://www.keikikai.jp/cgi-bin/index.cgi?D191>

★申込み締切りは、11月6日とさせていただきます。

柴田俊忍先生を囲む会

2009.10.26 松本英治, 琵琶志朗, 松久寛, 松原厚

皆様, お元気ですか.

前回の集まりから10年経ちました. その間に世の中も, 私たちもかなり変化しました. そこで, 下記の要領で, 近況を語り合う会を開催したいと思います. 参加願います (家族も歓迎).

日時: 2009年12月19日(土), 13時-15時

場所: 京大物理系校舎2階 214, 215室

会費: 5000円 (昼食代含む)

申し込み方法: 京機会 HP: <http://www.keikikai.jp/cgi-bin/index.cgi?D194>

連絡先:

京都大学大学院工学研究科 マイクロエンジニアリング専攻

琵琶志朗 (Shiro BIWA)

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

Tel/Fax 075-753-5794

biwa@kuaero.kyoto-u.ac.jp

—— 京機短信を同窓会の案内にもご利用ください ——

要領は、一般寄稿に準じます。

1. 2020年、あなたの会社は存在していますか？ 2009/07/13

<http://www.jri.co.jp/consul/column/data/786-miki.html>

日本総合研究所 研究員のココロ

<http://www.jri.co.jp/consul/column/data/PDF/column786-miki.pdf>

今年の3月に富士フィルムのCSR推進室の方にお話を伺う機会があった。環境分野への取り組みでは非常に先進的な当社を訪れるにあたって、有価証券報告書やCSRレポートを読んでいたところ、あることに気がついた。いつの間にか社名が富士「写真」フィルムではなく、富士フィルムHD(ホールディングス)になっていること、フィルムカメラ関連事業が縮小し、まったく別の事業が主になっていることなど、私の中にある富士「写真」フィルムのイメージとは完全に別の会社になっていたのである。

よくよく考えてみれば、2000年ごろからデジタルカメラ(以下、デジカメ)が普及し始め、その結果、写真フィルムの需要は激減、写真を現像する機会も減少していることから、それが富士フィルムHDの事業の中心で有り続けるはずはないのである。ここで、他のフィルムメーカーも富士フィルムHDと同様に、市場の変化に対応できたのか、ふと気になったので調べてみたところ、驚くべき結果となった。結論からいえば、倒産あるいは売上・利益を大幅に減らしている状況であり、富士フィルムHDのように見事に逆境を切り抜けた大手企業はいなかったのである。

市場の変化によって、その企業が取り扱っている商品が市場から退場を余儀なくされるケースは、写真フィルム以外にもたくさんあると思われる。しかし、このケースが示唆に富むのは、市場変化を適切に先読みし、それに上手く対応できた企業とできなかった企業の差が歴然としていることである。これは、今後、10年程度の時間軸で訪れる地球温暖化防止を理由とする市場変化を考えるにあたり、大いに参考になる。

今回は、フィルム業界の市場環境を激変させた「デジカメ・ショック」の顛末を概観する。そして、次に様々な産業に市場変化をもたらす「地球温暖化防止」について、企業が「自分事」として考えるための視点を整理する。

2. 第16回企業白書～「新・日本流経営の創造」～ 2009年07月03日

<http://www.doyukai.or.jp/policyproposals/articles/2009/090703a.html>

経済同友会 2008年度 企業経営委員会

概要 http://www.doyukai.or.jp/whitepaper/articles/pdf/no16/090703_6.pdf

冒頭 (はじめに、目次、金融危機への対応他)

http://www.doyukai.or.jp/whitepaper/articles/pdf/no16/090703_1.pdf

第1部 (日本企業の強みの再評価／棚卸し)

http://www.doyukai.or.jp/whitepaper/articles/pdf/no16/090703_2.pdf

- I. 日本企業の強みとして認識されてきたもの
- II. 成功している日本企業はどのようにそれらを実践しているか
- III. I IIの擦り合わせの中から浮かび上がってくる今後も維持・強化すべき日本企業としての個性・強み

第2部

(日本の繁栄維持に不可欠なグローバル化推進にあたっての日本企業の諸課題)

http://www.doyukai.or.jp/whitepaper/articles/pdf/no16/090703_3.pdf

はじめに 成長市場 (BRIICS 等) におけるプレゼンス強化

- I. グローバル人材の育成と活用
- II. M&A を挺子にした成長戦略
- III. コーポレート・ガバナンス／CSR
- IV. サービス産業／金融業の競争力向上にむけて

第3部 (日本企業にとってのグローバル化とは)

http://www.doyukai.or.jp/whitepaper/articles/pdf/no16/090703_4.pdf

第4部 (資料編)

http://www.doyukai.or.jp/whitepaper/articles/pdf/no16/090703_5.pdf

- I. 「企業経営に関するアンケート」調査結果
- II. 2007 年度提言書「新・日本流経営の創造」要約版
- III. 2008 年度企業経営委員会 ヒアリング一覧
- IV. 2008 年度企業経営委員会 委員名簿

3. がんばる中小企業を応援するために一活性化に向けた課題ー

2009年06月29日 経済同友会 2008年度中小企業活性化委員会

<http://www.doyukai.or.jp/policyproposals/articles/2009/090629a.html>

<http://www.doyukai.or.jp/policyproposals/articles/2009/pdf/090629a.pdf>

緊急提言～不況期の政府機能と緊急に措置すべき対策

はじめに

- I. 企業経営者の視点で中小企業の活性化を考える
- II. 活性化の要を考える
- III. 提言：危機の今こそ、あえて中長期の視座を大切にする

おわりに

4. ビジネスインフラ研究会取りまとめの公表について

平成21年6月22日

商務情報政策局

情報経済課

<http://www.meti.go.jp/report/data/g90622bj.html>

経済産業省では、ビジネスの多様化やグローバル化の進展に伴い、業界や国境を

越えた企業間情報連携を実現する必要性が高まったことから、昨年11月に、「ビジネスインフラ研究会」(座長:梅嶋真樹 慶應義塾大学SFC研究所プラットフォームデザインラボ副所長)を設置しました。計7回にわたる議論等を踏まえ、ここに報告書を取りまとめましたので公表致します。

グローバルな共創によって新しい価値を創造するビジネスインフラの実現に向けて

<http://www.meti.go.jp/report/downloadfiles/g90622b01j.pdf>

ビジネスインフラ研究会最終報告書のポイント(

<http://www.meti.go.jp/report/downloadfiles/g90622b02j.pdf>

(問い合わせ先) 商務情報政策局情報経済課 TEL:03-3501-0397

ビジネスインフラ研究会

平成20年11月14日 第1回 第1回議事要旨

<http://www.meti.go.jp/committee/summary/0004553/index01.html>

平成20年12月18日 第2回 第2回議事要旨

<http://www.meti.go.jp/committee/summary/0004553/index02.html>

平成21年1月19日 第3回 第3回議事要旨

<http://www.meti.go.jp/committee/summary/0004553/index03.html>

平成21年2月9日 第4回 第4回議事要旨

<http://www.meti.go.jp/committee/summary/0004553/index04.html>

平成21年2月24日 第5回 第5回議事要旨

<http://www.meti.go.jp/committee/summary/0004553/index05.html>

平成21年3月16日 第6回 第6回議事要旨

<http://www.meti.go.jp/committee/summary/0004553/index06.html>

平成21年5月26日 第7回 第7回議事要旨

<http://www.meti.go.jp/committee/summary/0004553/index07.html>

平成21年5月26日 最終報告書

<http://www.meti.go.jp/report/data/g90622bj.html>

5. 企業統治研究会報告書について

2009年6月17日

経済産業政策局 産業組織課

<http://www.meti.go.jp/report/data/g90617bj.html>

経済産業省経済産業政策局長の研究会として昨年12月に設置された企業統治研究会(座長:神田秀樹東京大学大学院教授)では、コーポレート・ガバナンス向上に向けたルールのある在り方について、検討してまいりました。

本日、最終報告書が取りまとめられましたので、公表します。今後は、本報告書の結論に従って、東京証券取引所等において、具体的枠組みが検討されることになります。

企業統治研究会報告書（PDF 形式：1,940KB）

<http://www.meti.go.jp/report/downloadfiles/g90617b01j.pdf>

（問い合わせ先） 経済産業政策局産業組織課 TEL:03-3501-6521

企業統治研究会

平成20年12月2日 第1回 議事要旨

<http://www.meti.go.jp/committee/summary/0004545/index01.html>

第1回配布資料

<http://www.meti.go.jp/committee/materials2/data/g81202aj.html>

平成21年1月27日 第2回 議事要旨

<http://www.meti.go.jp/committee/summary/0004545/index02.html>

第2回配布資料

<http://www.meti.go.jp/committee/materials2/data/g90127aj.html>

平成21年2月13日 第3回 議事要旨

<http://www.meti.go.jp/committee/summary/0004545/index03.html>

第3回配布資料

<http://www.meti.go.jp/committee/materials2/data/g90213aj.html>

平成21年3月25日 第4回 議事要旨

<http://www.meti.go.jp/committee/summary/0004545/index04.html>

第4回配布資料

<http://www.meti.go.jp/committee/materials2/data/g90325aj.html>

平成21年5月26日 第5回 配布資料

<http://www.meti.go.jp/committee/materials2/data/g90526aj.html>

平成21年6月17日 報告書

<http://www.meti.go.jp/report/data/g90617bj.html>

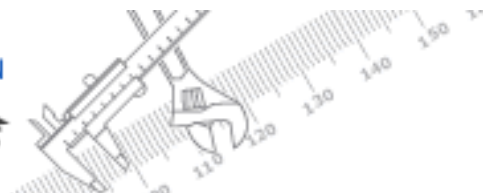
—— 京機短信への寄稿、 宜しくお願い申し上げます ——

【要領】

宛先は京機会の e-mail: jimukyoku@keikikai.jp です。

原稿は、割付を考慮することなく、適当に書いてください。MSワードで書いて頂いても結構ですし、テキストファイルと図や写真を別のファイルとして送って頂いても結構です。割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。

宜しくお願い致します。



2010年度体制発足

第7回大会で味わった悔しさを抱えつつ、もうこれ以上の失態をお見せするわけにはいかないという危機感の下、2010年度体制がスタートしました。「2カ年計画」と称しまして2年でポディウムの頂点を目指すという長期目標を掲げました。これに伴い、1年目である2010年度は「基本に忠実に」をテーマとした設計を行っております。

新年度車両設計完了
新年度車両 YJ-R08（通称「8号機」）の設計作業が10月初旬より開始され、遂に設計完了に漕ぎつけました。歴代車両の中でも最も早い設計完了となりました。今年度の設計は「基本に忠実に」をモットーに早期シェイクダウンを狙うものですので、特別に技巧的なところはありませんが、シェイクダウン後の走行テストの如何によっては、いつでも変更できるような柔軟性を持たせた設計となっています。歴代最速で設計が完了した現在の目標は歴代最速のシェイクダウンです。今年は多数回のテストを行うことにより車両の完成度を高めるという狙いをもっていますので、来月以降完成に近づいていく車両のご報告ができると考えております。

ご期待ください。

名阪 SL、琵琶湖 SL 走行会

9月25、28日に名阪SL様にお邪魔してYJ-R07で、車両評価を行うとともに、昨年度末に完成したドライサンプシステムのオ



イルタンクにサイトチューブを付けて、走行状態新年度車両について議論するメンバーとタンク内オイル量の相関関係を調査しました。また10月22日に琵琶湖SL様にてカートでドライバー練習を行いました。今年度ドライバー希望者が、初体験のものを含めて参加。早くも来年度ドライバーの座をめぐる熱い戦いが繰り広げられております。

岡山走行会に参加しました

10月11、12日の2日間にわたって、関西委員会主催の岡山走行会に参加させていただきました。この走行会で、私たちKARTは今年度設計の参考にすべく第7大会出場時から変更した吸気回り、潤滑回りをテストしました。吸気回りではサージタンクをアルミ製に変更、さらに吸気管を直管にした上でインジェクタマウントの位置変更も行い、ほぼ完全に新しくなった状態で走行会に臨みました。レスポンスの向上が見られ燃料噴射量調整も比較的スムーズにいくという良好な結果が得られました。潤滑回りでは新型オイルタンクをテスト。オイルの流れが見やすいように一部可視化したのは良かったのですが、ここからオイルが流出。岡山国際サーキットを始めとし、関係者の方々には多大なるご迷惑をおかけしてしまうこととなってしまいました。



さらに、この走行会では車両トラブル時の対応に関しての問題も発生。メンバーの安全に関わる危急の問題ということもあり、帰って来てすぐさま、走行練習時に発生し得るトラブルに関しての対応策を協議しました。また、車両討論会においては他校の車両や資料を見て設計の糧を得させていただきました。



大会期間中は詳しく見ることはできなかった点まで含めて多岐にわたる情報を収集しました。結果として未だに抱えている問題点も浮き彫りになりましたが、得られるところも多く、今後の車両製作に、生かしていきたいと思っております。